

## マウスの形から



左：右手専用デザイン（L = 14 cm） / 右：その2（多少おとなしい形）（L = 12.5 cm）

唐突ですが、マウスの右利き専用品です。（現在、使用しているWin用です）

デザイナーはマウスをデザインする場合、どこを、誰をターゲットに絞り、デザインするのでしょうか。それに対して、ユーザーはマウスのどこに何を求めて購入しているのでしょうか。

今、マウスの形状寸法は段々と小さくなっていませんか？（上写真は、大型のものです）  
握る感覚と摘まむ感覚の好みの違い、手の大きさの違い、利き手の違い、意匠の好みの違い、etc.....  
人間の持つ感性・感覚・多様性は、人それぞれ様々であり、差別があってはならないものです。  
だからこそ数多くの種類のマウスが存在しうると考えられますが、例えば、明日からマウスの形は全ての人を可能な限り満足出来るデザインでなければならない、としたら、デザイナーはどう取り組まなければならないのでしょうか。果たして、そんなマウスは出来るのでしょうか。

恐らく、満足出来るものは、不可能だと思います。（インターフェースの概念を変えれば別かも知れません）  
不特定多数向けに出来ている製品と専用品はどちらが使用し易いのか。それは勿論、専用品です。では、社会は何故今、UDに注目しているのでしょうか。UD製品と名乗らなければ、それは違うのでしょうか。

「場所」を例にしてみます。バス・電車のシルバーシートは何故あるのでしょうか。これは専用の場所ですが、バスは大抵1～2席あります。しかし、その形・機能は一般乗客のものと変わりありません。  
弱者に必要な形・機能があるはずですが、その“専用場所”が、有りさえすれば良いのでしょうか。ステップしかりです。それよりも、シルバーシートという概念がおかしいのであって、弱者を助ける気持ちがあれば、おのずと専用の場所は必要なくなるでしょう。

UDを否定しているわけではありませんが、UDという都合の良い言葉に社会は惑わされていません。大切なことは、UDの本質とは何であるのかを見極める事だと思います。

それは、形や機能よりも今の社会生活に必要な、ごく当たり前のこと。「人を想いやる心」だと思います。製品や場所に関わらず、デザイナーにとって、ユーザーにとって、一般社会にとって、全ての人々が社会生活していく上での道徳心という社会生活の基本であると思います。そしてそれは、UDであろうがなかろうが、デザイナーが常に持つべきものだと思います。そして次に考えるべき事は、意匠であり、機能だと思います。

UDの7原則は指針として必要ですが、今の社会環境を考慮すれば、この7原則にこれをプラスする必要が、あるのではないかと思います。どうでしょうか。